

学会彙報（二〇一九年二月～二〇二〇年五月）

◇二〇一九年度に提出された博士論文・修士論文・卒業論文は次のとおりです。

一、大学院 課程博士論文

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

二、大学院 修士論文

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

三、文学部 卒業論文

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

仏教学会活動報告

◇公開講演

二〇一九年二月六日（金）午後四時二〇分より

於 響流館メデアホール

京都市立芸術大学名誉教授 定金 計次氏

講題「インド後期仏教石窟と中期密教―『大日経』と胎蔵曼荼羅の成立地及び時期について―」

◇修士論文・卒業論文梗概発表会ならびに送別懇談会

二〇二〇年一月一七日(火) 午後四時二〇分より 於慶園館
終了後、記念撮影を行い、送別懇談会を開催した。

二〇二〇(令和二)年度 仏教学関係講義題目

一、文学部仏教学科(二〇一八年度以降入学 生・二〇二〇年度以降編入生適用)

演習

仏教学演習Ⅰ

上野 牧生

仏教学演習Ⅱ

三宅伸一郎・DASH SHOBA

箕浦 暁雄・戸次 顕彰

山本 和彦

仏教学演習Ⅲ

DASH SHOBA・三宅伸一郎

戸次 顕彰・箕浦 暁雄

概論

仏教学概論

山本 和彦・采翠 晃

新田 智通・戸次 顕彰

講義

大乘仏教入門

箕浦 暁雄

インド仏教思想論

上野 牧生

中国仏教思想論

戸次 顕彰

日本仏教思想論

R.F. RHODES

中国仏教史

宮嶋 純子

日本仏教史

國賀由美子・大艸 啓

浄土教史概説

東館 紹見・平野 寿則

宗教史

福島 栄寿・川端 泰幸

インド学

藤原 正寿

現代仏教論

嶋本 隆光

現代と真宗

DASH SHOBA

死生学

新田 智通

生命倫理

木越 康

人間関係学

門脇 健

地域仏教論

藤枝 真

仏教学特殊講義 1・2 (『華嚴経』概説)

渡辺 啓真

仏教学特殊講義 3 (仏教遺跡と聖地巡礼)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義 4 (小乗仏教聖典の世界)

織田 顕祐

実践研究

山本 和彦

仏教文献基礎演習

新田 智通

現代仏教演習

戸次 顕彰・藤元 雅文

現代仏教演習

梶 哲也・MICONWAY

現代仏教演習

三宅伸一郎・浦井 聡

現代仏教演習

秦野 貴生・村上 無量

現代仏教演習

三宅伸一郎

現代仏教演習

三宅伸一郎

地域仏教演習

DASH SHOBA

仏教学演習II

三宅伸一郎・DASH SHOBA

初期仏典を読む

秦野 貴生

箕浦 暁雄・戸次 顕彰

浄土経典を読む

山田 恵文・藤原 正寿

山本 和彦

維摩経を読む

梶 哲也

仏教学演習III

DASH SHOBA・三宅伸一郎

法華経を読む

戸次 顕彰

戸次 顕彰・箕浦 暁雄

欧文仏典を読む

MJCONWAY・井上 尚実

仏教学演習IV

山本 和彦

仏教学特殊演習1・2

村上 昌孝

新田 智通・采翠 晃

〔バガヴァッドギーター〕の精読

村上 昌孝

上野 牧生

仏教学特殊演習3・4

村上 昌孝

(パリ語仏典を読む)

DASH SHOBA

概論

山本 和彦・采翠 晃

仏教学特殊演習5・6

福田 洋一

仏教学概論

新田 智通・戸次 顕彰

(ツォンカパ中観思想の理解を深める)

福田 洋一

臨床フィールドワーク

箕浦 暁雄

パリ語

新田 智通

講義

新田 智通

サンスクリット語

村上 昌孝

現代仏教論

上原 永子

古典チベット語

三宅伸一郎

仏教文化美術論

上野 牧生

二、文学部仏教学科(二〇一五年度以降二〇一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

インド仏教思想論

戸次 顕彰

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

中国仏教思想論

戸次 顕彰

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

日本仏教思想論

R.F.RHODES

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

インド学

DASH SHOBA

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

死生学

藤枝 真

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

地域仏教論

三宅伸一郎

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義1・2〔華嚴経〕概説

織田 顕祐

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義3(仏教遺跡と聖地巡礼)

山本 和彦

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義3(仏教遺跡と聖地巡礼)

山本 和彦

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義3(仏教遺跡と聖地巡礼)

山本 和彦

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義3(仏教遺跡と聖地巡礼)

山本 和彦

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義3(仏教遺跡と聖地巡礼)

山本 和彦

一七年度入学生・二〇一七年度以降二〇一九年度以前編入生適用)

三宅伸一郎

仏教学特殊講義3(仏教遺跡と聖地巡礼)

山本 和彦

仏教学特殊講義 4 (小乗仏教聖典の世界)

宗教学概説

宗教史概論

新田 智通
狭間 芳樹

嶋本 隆光

三、大学院仏教学専攻

基礎科目

仏教の視点

専攻交流演習

木越 康・三浦蒼史加

松浦 典弘・藤枝 真

実践研究

仏教学基礎演習

現代仏教演習

文化美術演習

地域仏教演習

初期仏典を読む

浄土経典を読む

維摩経を読む

法華経を読む

欧文仏典を読む

仏教学特殊演習 1・2

〔バガヴァッドギーター〕の精説

仏教学特殊演習 3・4
(パリー語仏典を読む)

仏教学特殊演習 5・6

(ツォンカパ中観思想の理解を深める)

パリー語

サンスクリット語

現代チベット語

古典チベット語

R.FRHODES

三宅伸一郎

山本 和彦

DASH SHOBA

秦野 貴生

山田 恵文・藤原 正寿

梶 哲也

戸次 顕彰

MJCONWAY・井上 尚美

村上 昌孝

村上 昌孝

DASH SHOBA

福田 洋一

新田 智通

村上 昌孝

三宅伸一郎

三宅伸一郎

三宅伸一郎

専攻科目

仏教学特殊研究Ⅰ (講義)

仏教学特殊研究Ⅱ (文献研究)

仏教学特殊研究 (演習)

箕浦 暁雄・采翠 晃

山本 和彦・采翠 晃

箕浦 暁雄・山本 和彦

采翠 晃

選択科目

仏教学特殊研究 (論文指導)

仏教学研究 1 (初期仏教文献原典講読)

仏教学研究 2 (維摩経を読む)

仏教学研究 3・4 (Reading the Sutra
of Immeasurable Life in English)

仏教学研究 5・6 (合同ゼミ)

インド学研究

仏教学研究 (文献研究)

(チベット訳仏教文献の研究)

箕浦 暁雄・山本 和彦

采翠 晃 新田 智通

采翠 晃 山野 俊郎

采翠 晃 R.F.RHODES

山本 和彦・采翠 晃

箕浦 暁雄

山本 和彦

上野 牧生

上野 牧生

上野 牧生

編集後記

二〇二〇年がコロナ禍の一年として記憶されることは間違いないであろう。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大谷大学では二〇二〇年度入学式が急遽中止となり、以降、校舎での対面授業の停止、そして教職員を除き大学構内への入構が全面禁止となった。桜の咲き誇る季節が過ぎ、新緑の時期を迎えてもなお、大学の主役たる学生の姿がみられないキャンパスは、異様というほかない。その間、四月よりオンライン授業が開始されている。それなりの手応えもあれば、課題も山積である。オンライン授業を受講する学生からは悲鳴が聞こえてくる。教員側に絶えざる創意工夫が求められる。

緊急事態宣言が先月末に解除されたとはいえ、予断を許さぬ状況に変わりはない。そうした只中においても、研究の歩みを止めてはならないと、本号の編集を続けてきた。ここに『佛教学セミナー』一一一号をお届けできたこと、取次の文栄堂書店ならびに中村印刷の関係者に御礼申し上げます。

本号には、定金計次先生の講演録を掲載することができた。大谷大学にてインド仏教美術の授業をながらく担当くださり、その集大成としての公開講演会（二〇一九年度）の講演録であ

る。お読みいただければお分かりのとおり、文献学に裏打ちされた最新のインド仏教美術史研究であり、先生渾身の講演録である。それを本号に収録し得たことは、編集部にとって大きな喜びである。定金先生に御礼申し上げます。

また、二〇一九年度をもって織田顕祐先生がご退職を迎えた。織田先生はいわば仏教学科の顔として、研究・教育活動そして学科運営のみならず、大学運営にも尽力された。先生の最終講義は、華々しくもあたたかいものであった。その講義録は本誌次号以降に掲載の運びである。先年のローズ先生に続き、織田先生のご退職は、仏教学科の歴史にひとつの大きな区切りが打たれたことを意味するといえよう。私事で恐縮ながら、織田先生は編集者が仏教学科第一学年時の指導教員であった。先生の太いお声と、あの凜としたお姿は今でも目に浮かぶ。その意味もわからぬまま先生に覚えさせられた十二支縁起の意味を了解することは、いまや私にとつて畢竟の課題となった。織田先生の学恩に御礼申し上げます。

執筆者のご理解とご協力のもと、本誌の定期刊行を実現することができた。ここで改めて各執筆者に御礼申し上げます。本号には、それぞれ一篇の講演録、研究ノート、及び三篇の論文が掲載されている。（上野）